

「玄宮園」という名称の由来について

彦根市にある玄宮園は江戸時代を代表する大名庭園の一つであるが、その名称の由来を巡っては、これまで様々な説明がなされてきた。なかでもよく流布しているのは、この庭園が唐の玄宗皇帝の離宮になぞらえて造られているので玄宮園と名付けられたという説だろう。各種旅行情報誌や観光パンフレット類の多くが、園の名の由来として、そうした〈玄宗離宮説〉を掲げているし、ネットで玄宮園の訪問記を発表している大勢の人も〈玄宗離宮説〉のことを記している。

しかし、この説が根拠なきものであることはすぐに分かる。ここで挙げられている玄宗の離宮とは具体的にはどの離宮なのか、そして、玄宮園のどこが、またどのようにその離宮になぞらえて造られているのかについて言及されたことは、管見の及ぶ限り、今に至るまでない。玄宗皇帝の離宮で最も有名なものは、長安近郊にあった「華清宮」だろう。そこは玄宗が楊貴妃（楊玉環）と享樂の日々を過ごした場所である。開元の治と呼ばれる善政をしいてきた玄宗は、しかし、晩年、自分の息子である寿王が娶った楊玉環の美貌に迷い、自らの妃にしてしまう。皇帝は彼女との愛に溺れ、政治を顧みなくなる。その結果起きたのが安史の乱であり、それを機に唐の国力は衰退に向かっていった。華清宮には温泉が湧き、歌舞宴遊の日々が続いたという。離宮「華清宮」は、玄宗

皇帝と傾国の美女・楊貴妃の逸樂の園だったのである。

さて、幕政最重職の大老に就く家柄で、質実堅剛な家風とされる井伊家が、はたして、自らの庭園を、国政を大きく乱す舞台となったそのような華清宮になぞらえて造らせたりするだろうか。それは、さすがに有りえないだろう。

なお、玄宗皇帝の離宮としてその他に「興慶宮」の名も挙げられることがあるが、これと彦根の玄宮園との間にも、特に深い関係が見出せるとは言えない。

それでは、「玄宮園」の名の由来は何なのであろうか。すなわち、まず辞書を引いてみることにしよう（〈玄宗離宮説〉を端から信じ込んでしまっていると、人は改めて辞書を繙こうという気にはならないものである）。コンパクトな漢和辞典には「玄宮」の語は載っていないが、大きめの辞典になら、ちゃんと収録されている。たとえば、大修館『大漢和辞典』（初版、昭和三十三年刊）には、こう書かれている。「玄宮」Ⅱ「北方の宮。又、人君が道を思ふ宮」、と。そして用例として、『莊子』「大宗師」中の「夫道、顯頊得_レ之以處_二玄宮_一」。「注」人君恭默思_レ道之宮」などが挙げられている。とすれば、彦根の玄宮園は、第一義的には、城の北側にある園という意味にとるのが最も自然なのではないか。実際、玄宮園は彦根城からすれば、まさしくその北に位置しているのである。

玄宮園Ⅱ城の北にある庭園、という解釈が、今まで一度も提唱されてこなかったわけではない。ごく少数ではあるが、そうした解釈を打ち出した研究者もいた。それは、〈玄宗離宮説〉とは違って、無理なところがない、首肯し得る卓説だった。しかし、嚴

しく言えば、残念ながら、なお主には語釈に頼る推論の段階にとどまっていた、なんらかの文献史料に基づいた実証的な解釈ではなかった。つまり、玄宮園が「城の北にある庭園」を意味することを明確に裏付けてくれるような文献史料は、これまでなかなか見つからなかったのである。

ところが、先日、『北園きたぞのの記』(著したのは彦根藩校で和学方を務めた村田泰足とされている)という江戸後期の文書(彦根市立図書館蔵)に幸いにも巡り合い、そのなかの「引書考」中に、「北園 玄宮園ト称ス。彦根城北ニアリ、故ニ称ス」という文を発見することができた。これによって、玄宮園Ⅱ城の北にある王宮庭園という解釈は、一つの確かな、いや決定的とも言える根拠を得られたのではないかと思われる。

さらに、注目すべきは、『北園の記』中の「引書考」の文には、先の大修館の大漢和の用例と同じく、『莊子』「大宗師」の「顓頊之ヲ得テ、以テ玄宮ニ處ル。注ニ、人君恭黙シテ道ヲ思フ之宮ナリ」が引用されていることである(因みに「顓頊」は中国の伝説上の帝王で、北方を治めたといわれる)。大漢和にも『北園の記』にも記されている「注」の文「人君恭黙シテ道ヲ思フノ宮ナリ」に着目するなら、「玄宮」とは、華清宮のような、浮かれ騒いで享樂に耽る場所どころか、それとは正反対の、静謐のなかで沈思黙考する哲学的考究の場ということになるだろう。

玄宮Ⅱ玄宗皇帝の離宮という説明は、確かにとても分かり易いし、また歴史ロマンをかきたてる。しかし、彦根の〈神話〉の一つとも言うべきこの説が、だれによって、いつ、どのような経緯で唱えられ始めたのか、そして、この説がなぜ長い間、人々に広

汎に受容され続けてきたのかは、これはこれで、興味深い社会的な研究対象と言えるかもしれない。

(社会システム学科 金子孝吉)



玄宮園